

教科の枠を超えて求められる力とそのポイント[12月調査]より

佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]が実施されました。この調査を基に取組を見直し、課題については指導を行っていただいているところだと思えます。正答率だけでなく、誤答分析をすることが、授業の改善・充実につながります。以下に、[12月調査]の結果から、特に、管内でも正答率が低く、無解答率が高かった「活用」に関する問題(中1数学)を取り上げています。この問題から読み取れる教科の枠を超えて求められる力とそれを培うポイント例を紹介します。

【中1数学 8 (2)】 管内正答率 20.0% 無解答率 25.6% (県正答率 22.2% 無解答率 24.8%)

教科の枠を超えて求められる力

その力を培うポイント例

問題を把握し、理解する力

短時間に多くの情報から目的に応じて情報を取り出したり、内容を理解したりすることが求められます。



問題を把握し、理解する力を付けるために

- ◎ 問われることに対する学習問題の読み方
- ◎ 大切な情報への目印
- ◎ 学習用語の理解
- ◎ 取り出した情報の適切さ、まとめられる情報がないか等の吟味

見通しをもち、解決へ向かう力

根拠を明確にして説明する際には、構想を立て、見通しをもって解決へ向かうことが必要です。説明1をモデルとして活用すると見通しをもつことができます。



見通しをもち、解決へ向かう力を付けるために

- ◎ 結果の予想や概要のイメージ (モデル提示・アンケート活用)
- ◎ 既習事項の活用 (手順・活動ポイント・キーワード)



根拠を明確にして説明する力

説得力のある説明につなげるために、根拠を明確にして理由を説明することが求められます。説明の内容や順序性等、説明の仕方を理解することも大切です。



根拠を明確にして説明する力を付けるために

- ◎ 根拠の具体的な例示
- ◎ 視覚的な表現 (図を使う, 着目点を囲む)
- ◎ 根拠と結論の整合性
- ◎ 筋道を立てた説明の仕方 (よって~, したがって~等)

日頃から意識し、活動の充実を図っていきましょう!

『西部型授業』シリーズ！考え合う過程編

『西部型授業』のシリーズ第4弾として、「考え合う」過程について紹介します。考え合う活動は、学習の目標を達成させるための手段であり、どのような学習のゴールに向かわせようと考えているかが大切です。そのために、具体的な視点を示すことや、学習のねらいに応じて交流活動の展開をイメージしながら取り組む必要があります。その際、情報を操作する活動を取り入れたり、情報を可視化したりすることで、学習を深め合い、主体的な学びへ向かわせることができます。ここでは、考えを整理し、交流する活動の実践例を紹介します。

自分の考え、他者の考えを整理する①

〈中学校国語〉

実践例～物語の結末を考え、友だちと交流する～

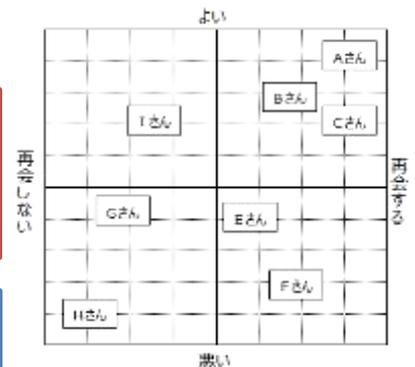
子どもたちの考えを、座標軸を使って整理することで、立場の違いがより明確になります。また、視点に沿った考えが促され、考えを補足したり、比較したりすることができます。

◆進め方

- ① 座標の縦軸（よい・悪い）と横軸（再会する・しない）の観点を決める。
- ② 教材を読み、観点に沿った結末を考える。
- ③ 座標上に一人一人名札を貼り、4つの事象で同じ立場の人、違う立場の人と交流し考えを深める。

◆ポイント

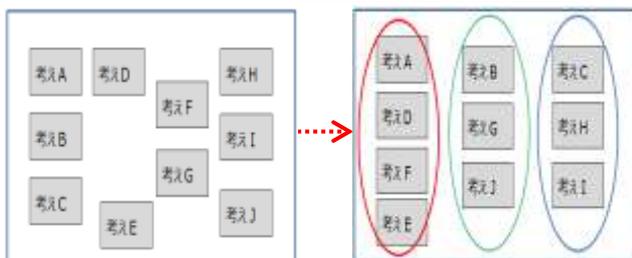
整理するために、観点を座標軸に据えたワークシートを子どもたちにも配布する。



誰がどんな立場かはっきりしますね。まずは、同じ立場の人と、なぜその結末にしたのが話し合ってみましょう。



自分の考え、他者の考えを整理する②



カード（付箋）を活用したKJ法的手法を用いることで、活動などを通して生まれた気づきや意見を類型化し、分類していくことができます。



〈小学校国語〉

テーマに対する意見を付箋に書くことで、友だちの考えが一目で確認でき、話し合いながら意見を整理することができます。

〈小学校生活〉

それぞれの場所で見つけてきた気づきを、付箋に書くことで、視点に沿って分類・整理することができます。



「学力向上のための手びき」第2版を配信しました！

西部型授業の「振り返る過程」や「学習規律」の追加等、授業の改善・充実に役立てていただけるように第2版を配信しています。ぜひ、ご活用ください！

西部教育事務所HP <http://cms.saga-ed.jp/hp/s-kyoikujimusho/>

まずは、ここをクリック

